

児童たちは、自分で設置した丸太イスにさっそく座り、「このいすに座ってお弁当を食べてもらいたい」「家族にこの森へ来ていすに座ってもらいたい」と大はしゃぎしていました。



完成した丸太イスと児童

午後からは、事前学習していた「森の働き」について、実際に目で見たり、肌で感じたりして心に留めてもらうために白川森林事務所成瀬森林官が講師となって自然観察を中心にした森林教室を行いました。

樹齢数百年のブナやトチの太木が茂る森を目の当たりにした児童たちは、目を丸くして「白川村にこんな森があるなんて知らなかった」と驚きを隠せない様子でした。課題にしていた「木が土に変化

する秘密」や「森の木が絶えない秘密」をあちこち駆け回りながら一生懸命に探り、倒木に生えたキノコを見つけたり、稚樹が芽生えていることを発見しては大きな歓声を上げ、熱心にメモする様子に「普段の授業もこれくらい盛り上がりつつほしいな」と担任の三島先生も目を細めていました。

今回の活動を通じて児童たちは「今度は森の草刈りをやりたい」「次はこの森に家族で来たい」「木が土に変わるのにキノコや虫が働いていることを知った」「もっと森の観察をしてみたい」「森と海がつながっていることが理解できた」などの感想を寄せてくれました。



森林教室の様子

児童たちに事前に確認した時には、当該休養林を訪れたことのある児童は一名だけで、あとの十二名と担任の三島先

生も初めてということでしたが、無邪気にはしゃいだり驚嘆する様を見て、将来を担う児童たちに郷土の自然や森の営みに少しでも興味を持たせることができたのではないかと思います。

### 高校生が林業などの現場を学ぶ

【東濃署】七月八日、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科の一年生三十九名が、中津川市内の国有林等で、木材の生産、流通、加工及び建築までの一連の流れを見学し学習しました。

この取組は、岐阜県の「農林高校生林業就業促進事業」の一つとして、恵那農高、東濃森林管理署、恵那那農林事務所の三者が連携して、今年度から新たに実施することになったものです。

当日は、熱中症が心配されるほどの蒸し暑さとなった中、まずは、付知裏木曾国有林内の間伐請負事業現場で樹齢約六十年生のスギの伐倒、木寄せ、玉切り等の作業を見学しました。森林管理署の職員から、林業のサイクル、伐倒作業の方法や安全確保のための注意点、採材の留意点等について手作りのパネルを使って説明すると、生徒たちは熱心にメモを取っていました。その後、樹高や樹種を当てるクイズなども行い、生徒たちには森林や山の仕事に少なからず興味を持ってもらえたのではないかと思います。

次に向かったのは、加子母地区にある



間伐事業現場の様子

森林組合とその土場です。組合長から森林組合の仕事や木を使うことの重要性などについてスライドを使って話があった後、スギやヒノキの丸太が並ぶ土場で森林組合の職員から、丸太の売り、高い値がつく丸太の見方などについて学習しました。ここでも丸太一本の値段等についてのクイズがあり、自分の答えと大きく違う説明があると皆びっくりした様子で聞いていました。

次に、近くの製材工場を訪ね、丸太が柱や板になる工程を見学しました。社長さんの案内で、ツインのバンドソーによる柱材の製材、モルダーがけ、床や壁に使う板材の製材などについて説明を受け、生徒たちは普段家で目にする木の柱や板がどのように作られているのかを見て大変関心を持った様子でした。また、端材から作るチップ、製材時に出る大量

のおが粉、樹皮を砕いた堆肥用資材など、余すところなく一本の木が利用されていることに驚いていました。



土場での様子

最後に向かったのは東濃産のヒノキを使って作られた産直住宅のモデルハウスです。生徒たちは、ずっと炎天下で見学していたためか、数棟あるモデルハウスの中に入って暑さを凌ぎながらくつろいだ様子でした。

今回初めての取組でしたが、今後、一年生の毎年のカリキュラムの中に組み込んで継続して実施していくこととなりました。将来、この生徒たちの中から一人でも多くの者が森林・林業・木材産業に関連する職業に就いてもらえることを願っています。

### カヤの平自然休養林で 高校生による歩道整備

【北信署】八月九日、長野県下高井農林高等学校の三年生十名が、木島山国有林のカヤの平自然休養林内で歩道整備を行いました。

この活動は、歩道整備を行いながら地元のカヤの平高原の豊かな自然環境について学ぶことを目的として実施しました。作業は丸太を使った階段作りで、北信州森林組合より提供された、同村に隣接する中野市の山林で間伐したスギの小径木を利用しました。



歩道整備に取り組んだ生徒たち

当日は、快晴で非常に暑い中での作業となりましたが、生徒たちは北信署員及び同森林組合職員の指導の下、全員で協力して道具や資材を運び、二時間ほどの作業で約二十段の階段を作製しました。このような階段は、人が歩きやすくな

るだけでなく、雨水の流れにより歩道が掘れて荒れてしまうことを防ぐという役割も果たします。

北信署管内でこのように「産・官・学」が連携した取組を行うのは今回が初めてです。若い世代の方々に地元の自然環境や森林・林業について知ってもらい、機会としても非常に意味のある活動であり、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

### 夏休み子どもふれあいデー開催

【企画調整課】七月三十一日、中部局において、地域の子どもたちに中部森林管理局の仕事や、森林・林業を知ってもらう目的で「夏休み子どもふれあいデー」を初めて開催しました。

各課が工夫した体験プログラム「金属



局大会議室でのイベントの様子

各イベントを体験するとカードがもらえるスタンプラリーもおこない、そのカードには樹木の説明と局の仕事内容の説明が印刷され、十枚のカードでミニ図鑑が完成するため、たくさんの子どもたちがカードを集め図鑑を完成させていました。

また、中部局保有の昭和初期の林業の写真展示や、森林官の使用する、GP

探知機で探せ」、「木の高さを測定せよ」、「十メートルの距離を当てろ」、「機関車に乗って写真を撮るのダ」、「自分の名刺作るのダ」、「局長にあいさつに行くのダ」、「木工クラフトで作品を作れ」、「丸太切りを体験せよ」、「マイ箸を作るのダ」、「航空写真の立体視を成功させよ」の十種類のミッションを通して森林・林業に興味を持っていただくための体験をしていただきました。



局中庭でのイベントの様子

S、輪尺なども展示し、北信署百瀬森林官から解説等も行いました。

参加いただいた子どもたちは「自分で作ったお箸でご飯を食べるのが楽しみ」、「木の高さを測るのは難しかった」、「木は好いにおいがする」などの感想が聞かれ、大好評をいただきました。

当日は、五百三十名余の方々にご来局いただき、森林・林業に関心を持って抱けるふれあいデーとなりました。



「東信署 相木森林事務所」

谷脇雅博 森林官

相木森林事務所は、長野県の東部に位置する小海町に所在しています。

管轄する国有林は、群馬県との県境に位置する北相木村に所在する川越石、御座山（おぐらやま）国有林、南相木村に所在する南相木山国有林、官行造林の約三千六百ヘクタールを管轄しており、南相木村の山林面積の約三五パーセントを占めています。

管内は、カラマツを主とする人工林が六〇パーセント、コメツガ等の天然林が約四〇パーセントとなっています。

管内には、古くから神が鎮座する山として、地元住民から信仰されている、日本二百名山の、御座山（二一、一一二メートル）があり、現在は、御座山国有林の一部の約百七十七ヘクタールを「郷土の

森」に指定し、天然林等の保護を行っています。

山頂からは、八ヶ岳連峰、浅間山などが見渡せ、山腹にはシヤクナゲが群生しており、六月頃にはきれいな花が咲き、登山者の心を魅了してくれる隠れた名勝となっています。

更に、南相木山国有林には、東京電力の揚水式発電所である神流川発電所の上部調整池（奥三川湖）として、真っ白で鮮やかな石灰岩等を積み上げ、平成十七年に完成した南相木ダム（ロックフィルダム）があります。



南相木ダム

南相木ダムは、かつて国有林だった箇所で作られ、日本一標高の高い所にあるダム（一、五三二メートル）として、南相木村の観光地の一つに挙げられ紹介されています。

また、奥三河湖の周囲を約5キロの遊

歩道が整備され、自然散策ができるようになっており、周囲の国有林はカラマツの春の芽吹きや秋の黄葉が、奥三川湖と重なり合っており、とてもきれいな風景を醸し出してくれます。

機会があれば是非お立ち寄りください。



御座山

日々の業務は、境界巡検、森林・林道パトロール、各種請負監督等業務にあつていきます。

また、昨年は森林計画の予備編成で、森林計画を立てるといった大仕事も携わりました。

現在、当森林事務所の森林官として二年目になりますが、今まで経験したことがないことが多く、まだまだ知識、経験不足と痛感させられます。

その度上司、先輩方に、アドバイス、ご指導をいただきながら、日々業務にあつていきます。

これからも、上司、先輩からのアドバイス等を大切に、多くの知識、経験をj得て、自然豊かな南北相木村の国有林として、地元には喜ばれる、よりよい山づくりを目指し、日々業務に励みたいと思います。



現場で打合わせする森林官

人のうごき

中部森林管理局人事

八月一日付

▽岐阜森林管理署地域技術官 小坂森林事務所（岐阜森林管理署付）

稲川 年秋

行事・会議等の予定

◎防災訓練

9月3日 中部局

◎森林管理署長会議

9月19日～20日 中部局



岐阜県中津川市付知町の中央を流れる付知川の上流部は「付知（つけち）峡」と呼ばれ左に西股谷、右に東股谷と分かれます。この付知峡は、「森林浴の森日本一〇〇選」「岐阜県の名水五〇選」「飛騨・美濃紅葉三十三選」に選ばれたところ。今回は東股谷を紹介します。



青色の清流をたたえる付知川とキャンプ場

■「キャンプ場」がいっぱい

国道二五六号線付知峡口から北へ入って約五キロメートル、付知川河畔には、

大小八つのキャンプ場・オートキャンプ場が隣接しており、春は桜、夏は川遊びや釣り、秋は紅葉と季節ごとの楽しみがあり、休日には多くの家族連れなどで賑わいます。

■滝と岩の渓谷美「不動滝」

付知峡の中でも多くの人々が訪れる名所「不動滝」は、断崖上の展望台から見下ろすことができ、エメラルドグリーン綺麗な水が目を引きまます。



伝説が残る不動滝

四季折々に美しいこの場所には伝説があります。それは今から八百年以上前のこと、この地に住んでいた高僧智証和尚を村人が殺してしまいました。彼らが投げ捨てた和尚の屍は、不思議なことにまるで生き物のように川を遡りやがてこの滝に流れ着いた袈裟は滝壺でいつまでも渦を巻いていたそうです。その霊を慰めるため祀られたのが不動明王。今では目の神様として参拝する人も多いようです。

周辺は、「不動公園」として遊歩道が整備され、「観音滝」「仙樽の滝」も巡ることができます。

■人を寄せ付けない「百間滝」

不動滝の上流は、更に断崖絶壁の急峻な地形を呈しており、国有林入口から東股本谷を六キロメートル遡った所に「百間滝」があり、林道際の展望台から望むことができます。



展望台から見た百間滝

この百間滝は、断崖絶壁に囲まれているため、滝壺には近づけず神秘的です。

■周辺の山々を一望できる「夕森山」

下浦林道登山口から山頂までは約四キロメートル約三時間です。登山道は苔石とオシダが茂るうっそうとした森林に囲まれています。

「夕森山」の標高は一、五九七mで山頂からは、霊峰「御嶽山」をはじめ「恵那山」「小秀山」など周辺の山々を望むことができます。



付知裏木曾国有林から夕森山を望む

◆所在地

岐阜県中津川市付知町

◆アクセス方法

〔公共交通機関〕

JR中央本線中津川駅下車、北恵那交通バス「付知峡・倉屋温泉行」約五十分「付知峡倉屋温泉」から徒歩約九十分

〔自家用車〕

中央自動車道中津川IC⇨国道二五七号・国道二五六号を下呂方面へ約四十五分

◆お問い合わせ

付知町観光協会  
電話番号 〇五七三―八二―四七三七